

# 炊きだしボランティア通信 vol 4 6 2010. 12 月

炊きだし 12月11(土) 晴れ 9:00~元寺小路教会(準備) 12:00~五橋公園(炊きだし)

天気よし。炊きだし参加者61名(女性3) 女性2人はパートナー付き。内一人は顔半分土色。DVを受けているのがわかる。

刑務所から出所したばかりの詐欺師のオヤジが最近毎回炊き出しに来て、あれ取ってこいこれ取ってこいと指図しているのが目についた。見ても不快であった。「提供品の衣類は自分のものだけ取って下さい。」正平協スタッフが声高に言った。今日はまた、紙袋が不足した。配給の米については「アパートの人ももらっている」との抗議があった。寝袋は足が出るのがほしいそうだ。足・頭がすっぽり被るのは、風呂に入らない分だけ臭いがこもること。歩きずくめなので靴は月三足は必要。足が広がるので大きめがいい。W会長の相談コーナーでは、アルバイトが見つかって也容易にはアパートに入れないことの相談。週3日時給600円では生活できない。若者が週5日働いても月12万円程度。厳しい状況は続く。本校からのボランティア同好会は本日4人。前日から定期考査中であつたので、参加はえらい。



おむすびづくりに入りまーす。



さあ、いらっしゃいマーし。



この毛布はいいですよ。



今日活躍した皆さんです。

(参加感想から)

「最初の方は何をすればよいのか分からず戸惑いましたが積極的に質問したり声がけをすることができました。今回を通してこんな自分でも少しは誰かの役に立つことができるのかなと思いました。反省点はたくさんありますが、一番は学校にいるときと同じ明るさでボランティアに参加してしまったことです。もう少し落ち着いた行動をするべきだったと思いました。」(2年)

「私にとって初めてのボランティアでした。最初はどのように接したらいいのかなどいろいろ

ろ考えていました。だけでもすぐに皆さんとうちとけることができました。すごくいろいろなことを学びました。次回も参加したいです。」

(2年)

「最初はとても緊張しました。でも豚汁作ったり、おにぎり作ったり、おかずを作ったりと、とても楽しかったです。ホームレスの方々とのおふれあいでも個性や特徴などが見えて、最初思っていたイメージとは違って、とても私的にプラスになった体験でした。もっともっと人のためになることをしてゆきたいと改めて思いました。」(2年)

今回の参加生徒達は、とても賑やかで明るく活動的なので、準備中からあちこちで大きな笑いがおこっていた。

#### 献品

高校と小学校の保護者の方から食品・衣類をたくさんいただきました。ありがとうございます。

#### 夜回り

12月8日(水) 20:15~21:25 Tさんという正平協のベテランのご婦人と同行。

国際センター裏1人、表1人。表の方は3年も前からいたとのこと。

西公園旧図書館。Oさんから教えてもらって、おじいさんを捜しに公園奥の大きな木の下にゆくと、確かに石のベンチで毛布にくるまっていた。「こんばんは」と起こすと、中からヒゲもじゃのおじいさんの顔が出てきた。おむすび類をさし上げながら炊き出しの案内もしてみると、「行かない」と言う。それがニコニコした顔から出てくる言葉だけに、頑固だった。人間関係で何かあったにちがいない。

Oさんからの帰りに、置き忘れたゆで卵とカイロを渡しに公園のトイレわきに車を横付けして、木の下のおじいさんのところへ走った。ベンチに起き上がってまだ何か食べている姿が街灯でぼんやりと見えた。「おじいさん」と声をかけた途端、声がうわずってしまい、涙があふれそうになった。自分でもなぜだか説明はつかない。おじいさんがその木の下でそうやって寄りかかって生きてることに、涙が吹き出した。かなしいのと切ないのとで、走り寄ってゆで卵を渡しながら黙った。

Tさんが言う。「Hさんの話ですけどね。炊き出しに並ぶのは、自殺ではなく、生きるのを選んだ人たち。炊き出しに並ぶことについて、ホームレスになっても人間ならあんなことしない、とまでいう人もいます。生きることに人はどこまでもプライドがついてくる。ホームレスの原因で一番多いのは多重債務。次に人間関係。ところがホームレスになってまで人間関係。彼らのことばでエサ取りも縄張りあり。」

この通信を発行できたことに感謝します。ボランティア同好会顧問 高橋 寛